

厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業
「小児・AYA 世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の
均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位の
がん医療の実現を目指して (20EA1004)」
分担研究報告書

がん・生殖医療における人材育成に関する研究 (薬剤師)

研究分担者 前沢 忠志 三重大学医学部附属病院高度生殖医療センター 講師

がん・生殖医療において、患者は短期間に妊孕性温存を実施するかどうかの意思決定を迫られる。その過程において、医師だけでなく看護師・心理士・薬剤師等のコメディカルの役割は重要である。その中でも薬剤師は、抗がん剤などの薬剤の毒性、性腺毒性等の知識が豊富であり、患者に正確な情報を迅速に与えることが期待できる。しかし現在、がん・生殖医療への薬剤師の関りは限定的であり、より深く関ることより、患者への情報提供の円滑化や患者の意思決定の助けになることが期待される。また、化学療法のレジメン作成段階で、性腺毒性について正確な評価ができれば、がん治療医への妊孕性温存の患者への情報提供について相談することも期待できる。本研究では、薬剤師と医師のがん・生殖医療における連携の実態を明らかにし、今後の連携の在り方について広く啓発していくことを目的とする。

A. 研究目的

がん・生殖医療において、患者は短期間に妊孕性温存を実施するかどうかの意思決定を迫られる。その過程において、医師だけでなく看護師・心理士・薬剤師等のコメディカルの役割は重要である。薬剤師は、抗がん剤などの薬剤の毒性、性腺毒性等の知識が豊富であり、患者に正確な情報を迅速に与えることが期待できる。しかし現在、がん・生殖医療への薬剤師の関りは限定的であり、より広い関りが期待される。本研究では、薬剤師と医師のがん・生殖医療における連携の実態を明らかにし、今後の連携の在り方について広く啓発していくことを目的とする。

B. 研究方法

令和4年に複数回の班会議を実施し、医師と薬剤師のがん・生殖医療における連携体制について本邦の実情を明らかにできる内容について、医師

側、薬剤師側双方についてのアンケートを作成した。アンケート内容は、各々の回答から医師・薬剤師の双方がどのように妊孕性温存をとらえ、各々に対して何を求めているのか、円滑な連携を構築する方法について、現状の問題点を明らかに出来る内容とした。

本アンケートは、令和5年2月に、がん診療連携拠点病院、がん診療連携病院等、がん診療を扱う医療機関に対してアンケートを送付し、その中身はがんを扱う各診療科及び薬剤師部門宛てに送付した。また、医療薬学会の会員向けのメールリストからもアンケートを依頼し、がん診療病院に在籍していないが、がん患者に関わる可能性のある薬剤師も対象とした。回答は、送付もしくはメールで送付したQRコードよりGoogleフォームへのアンケートに入り、回答する形式とした。

本アンケート結果をもとに、今後、医師—薬剤師間の連携に必要なものを本班会議で作成してい

き、広く啓発していく。

(倫理面への配慮)

アンケートは施設に送付するが、回答者は無記名で回答するため、個人の特定は行われないうよう配慮を行った。

C. 研究結果

現在、アンケート結果の収集中であり、結果が出たのちに報告を行う。

D. 考察

本アンケートを作成する過程の班会議では、薬剤師が十分に関与している施設は少ない印象であった。薬剤師は、抗がん剤の毒性、性腺毒性に関する知識を十分に持ち、抗がん剤レジメンの作成段階で患者への性腺機能低下のリスクを十分に把握出来ることで、早期に妊孕性温存が必要な患者を抽出することができると期待される。そのために、現状の化学療法レジメン作成や医師のカンファレンスにどれほど薬剤師の参加があるのかを明らかにする必要があると考えられた。そのうえで、患者の妊孕性温存への説明に、どの程度薬剤師が関わっているかを明らかにしていく。また、薬剤師が性腺毒性についての評価を行う際や患者説明の際に参考となる情報源についての質問も行い、今後薬剤師が妊孕性温存に関わる過程で、説明ツール及び検索源の参考になるものが必要だと感じたため、本内容についてもアンケートに盛り込んだ。

令和5年度中にアンケートの集計及び公表を実施し、がん・生殖医療に薬剤師が関わる際の障壁や連携についての問題点から、今後の薬剤師への啓発を円滑にするための資材作成等を行っていく必要がある。

E. 結論

薬剤師の医師のがん・生殖医療における連携の実情を明らかにし、全国の薬剤師により妊孕性温存に関わってもらうことにより、患者が多くの恩

恵を得られることになる。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし